



UpsideJapan

THE TECH INSIDER

www.upsidejapan.com

! ホーム ! UPSIDEについて ! UpsideToday米国版 !

! コラム ! ビジネスモデル ! 注目の企業 ! キーパーソン ! 業界動向 ! アジア最新ニュース ! ITな暮らし !



Upside Japan / コラム



注目記事

- ・MSNが音楽配信サービスに参入!
- ・ネットのコンテンツで金
は取れるのか?
- ・マイクロソフトがトラン
スマタと提携!
- ・iモードがアメリカにやっ
てくる!
- ・ハイテク株よ、底の底
まで落ちてくれ
- ・略語の山に埋もれた
B2Bマーケット



デジタル用語辞典:

検索



これからですよ、大川さん 中村伊知哉@LANTIC【特別編】

2001年4月26日

2001年4月26日、大川功さんの葬儀が都内で執り行なわれました。74歳というのは若すぎます。若いころ病で8年のブランクがあったんですから、実質まだ66歳なんです。何とも惜しい。これからが本番だというのに。

大川さんといえば、年商1兆円のCSKグループを築いたベンチャーの雄です。セガやアスキーを含む90社に及ぶグループの総帥です。その人生はチャレンジの連続でした。晩年、心血を注いだセガのドリームキャストにしても、高性能で壊れない破格の映像インターネット機というコンセプトは、世界的な挑戦でした。そしてゲーム業界は、直線的な開発競争の段階を終えて、いよいよクリエイティビティの勝負になってきます。これからやっとな面白くなるんです。

厳しい人でした。取り分け競争が激しく、虚々実々の駆け引きが渦巻くデジタルの世界マーケットで渡り合ってきたのですから当然です。でも私にとって大川さんの印象は、ビジネスの厳しい顔よりも、未来を切り拓く夢に満ちた少年のような笑顔の方が強い。思い出すのは笑い顔ばかりです。

京都から世界に広がる大川氏のビジョン

私が役所を辞めて渡米したのも大川さんの夢を実現するためです。メディアと子供に関する研究所「MIT大川センター」を設立するというプロジェクトです。98年秋のジュニアサミットで発表され、2003年秋にオープンする計画ですが、それはこのコラム第1回でご紹介したので略します。

MIT大川センターに先立って、その日本版ともいべき子供センターを造ろう、というのも大川さんの発案でした。そうしてこの4月、京都の南、けいはんな地区に誕生したのが「CAMP」です。技術とアート、デジタルとアナログを融合させたワークショップのための参加型施設で、子供たちが創造力を発揮する活動を進めます。

もちろんMITメディアラボがサポートするほか、インテルやレゴ、ナシ

ョナルジオグラフィック、各国の子供博物館や大学も協力を表明しています。内外の多数のアーティストや研究者もボランティア的に協力してくれています。

いちめん満開のサクラの庭でのオープニングには、あんなに楽しみにしていた大川さんの姿はありませんでした。しかし大川さんのビジョンはこれから世界的な普遍性をもって広がっていくはずです。

人材や場所を提供し、人を育てることに熱心だった

関西の大川センター/CAMPのすぐそばに、日本が世界に誇るメディア研究所「[ATR](#)」があります。大川さんと私の最初の接点は、そのATR設立時にさかのぼります。17年前、私は郵政省の新人でした。通信自由化に向けた制度改正のまっただなか、CSK社長の大川さんはよく、上司だった内海善雄課長(現ITU事務総長)のところへ談判に来てました。お茶くみ役の私は、大川さんが通信自由化の必要性を熱く語るのをいつも盗み聞きしていました。

そのころ、初めて私に任された仕事が、自動翻訳電話の開発計画を立てるプロジェクトでした。世界に先駆けて、国家プロジェクトとしてのプランを作る。京大の長尾真教授(現京大総長)に委員会の座長を引き受けてもらいました。しかし役所には十分な人材も予算もない。それを聞きつけた大川さんは、見返りも求めず、優秀な人材を派遣したり場所を提供したりしてくれました。その成果が国策として結実してゆき、ATRの誕生につながっていくわけです。大らかな国土でした。

人を育てることに熱心でした。日本を代表する数多くのベンチャー起業家が、大川学校の出身と呼ばれています。学者も育ててきました。[大川情報通信基金](#)という財団法人を通じて、内外の若手学者にも資金的な援助をしてきました。

若い人、クリエイターやアーティストが好きだった

若い人、現役の人が好きでした。クリエイターやらアーティストやらがいつも周りにいました。いつも飲んで歌って踊っていました。最先端のSFX映画やJ-POPSのライブにも足を運んでいました。お相撲さんや芸者さんや役者さんのタニマチでした。お座敷で、仲居衆にご祝儀をホイとお渡しになる姿を拝見したことがあります。その自然で無造作な優美さ、並みのベンチャー社長には到底たどりつけない年季だなあと感じ入ったものです。最後のお大尽かもしれません。

たくさん成功と、いくつかの失敗があったと思います。成功のことは知ってます。いちばん失敗したのは何でしたかと聞くと、「サンマイクロバイロシステムズを安く買うチャンスがあったのに、ふと買いそびれたそうです。それをどこか楽しげに語っていました。

1月、大川さんは個人資産約850億円をセガに贈与しました。「事業は一代限り。事業で得た資金は事業に返す」という経営哲学をみずから実践したわけです。投げ打つ、という感覚のビジネスが大川流で

すが、人生の最後に、未来へ身を投げ打ったように見えます。

大川さんが投げ打った夢やビジョンを受け継いで、花開かせていきたい。いやきっと、世界の子供たちはわかっていて、きちんと受け継いでいってくれるものと信じます。

「お前しっかりせえよ」。天国からの大川さんの声を聞きながら、私も努力を続けます。

中村伊知哉 プロフィール

マサチューセッツ工科大学 客員教授
'61年生、京都市出身。京都大学経済学部卒。

在学中はロックバンド“少年ナイフ”のディレクターで活躍。
'84年、郵政省入省。'93年からパリに駐在し、'95年に帰国後は郵政大臣官房総務課課長補佐を務める。'98年、郵政省を退官し、(株)CSK特別顧問に就任。同年、マサチューセッツ工科大学 客員教授に就任。

著書に『インターネット,自由を我等に』(アスキー出版局)などがある。趣味は、ずばり“メディア”。

ホームページ：<http://www.media.mit.edu/ichiya/jpn.htm>

▶[中村伊知哉@LANTIC【連載リスト】](#)
(<http://www.upsidejapan.com/upside/column...>)

(中村伊知哉)

！ASCII24！ASCII24 Business Center！日刊アスキー Linux！アスキーデジタル用語辞典！
！auto-ASCII24！Shes.net！ASCII Job Serve.！アスキートップ！

！[個人情報の取扱について](#)！[編集部へのコンタクト\(info@upsidejapan.com\)](#)！[広告掲載のご案内](#)！

Copyright (C)1993-2000 Upside Media Inc.
Copyright (C)2000 ASCII Corporation.
All rights reserved.